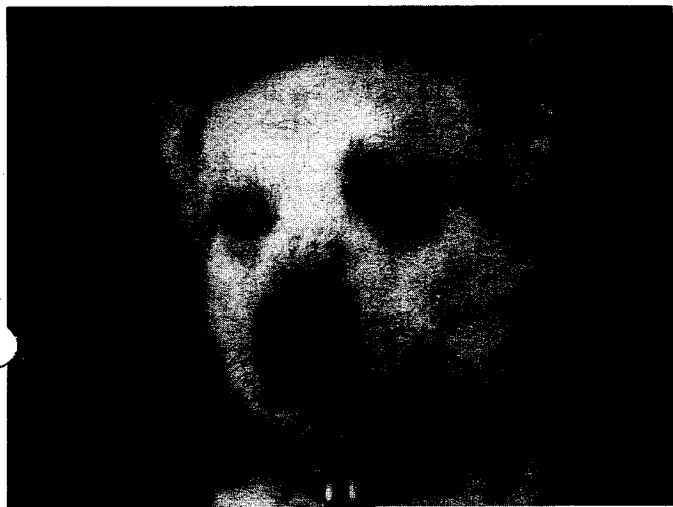




A VOICE FOR ANIMALS

No.22

Summer 1996



© 望月正夫

Raising Standards

When colour photos of ARK's animals-for-rehome appeared in a photo magazine recently, we were inundated by phone calls from people wanting to adopt a cat or dog. Among the callers were people who said "I'd like number seven, can you send it by takyubin (parcel delivery)." They were quite surprised that they were expected to come to ARK not only to look at the animal to see if they liked it (and it liked them) but also to be interviewed as potential pet owners. It goes to show that many people regard pets as just another commodity they can get by mail order. The chance is that if they buy or adopt a pet in this casual way they will just as easily discard it when they no longer want it.

ARK is not a pet shop nor a pet business. The animals that come here are ones which have had a miserable start in life. They have been abused, ill-treated, abandoned, unloved or unwanted. We want them to have the best home we can find, where they will be be cared for and loved for the rest of their life. We have a strict rehoming policy for this reason. If people cannot fulfil our requirements or we feel they would not make good pet owners we refuse them. Our new questionnaire for potential pet owners is long and detailed, asking about previous pets owned, knowledge of vaccinations, details of their vet, their views on neutering and proof of housing contract and so on. People who have owned animals before are often inflexible and ignorant while first time pet owners are more likely to listen and are more willing to learn.

While some may say we are too strict, (for example we will never give away a dog that will be kept chained but insist that the owner builds a sturdy fence around the garden or keep it inside as a family member), it is important we stick to our principles of raising the level of pet ownership, not lowering our standards to the general level where lack of responsibility and ignorance prevail.

It is appalling that local authorities like the hokensho who should know better since they kill nearly a million pets a year and who should be setting a good example, actually hand out puppies to anyone without proper checks and without insisting on health care, neutering or responsible pet care. No wonder these animals are returned to the hokensho a year or so later.

ARK's Rehoming Guide and Questionnaire are available free to anyone who wishes to have them.

ペットとのより良き共存のために

数ヶ月前、里親をさがしているアークの犬・猫たちのカラー写真が、ある写真雑誌に掲載されました。その日から彼らの里親になりたいという人々からの電話が昼夜問わず寄せられるようになったのです。その人たちのなかには、「7番のを宅急便でお願いします。」という人もいました。アークでは里親希望者に来訪していただき、里親になりたいというペットを実際に見るだけでなく、ほんとうに気に入っているかどうか、またそのペットに自分が好かれるかどうか判断していただき、そして事前調査と面接のうえで初めて、選んだペットの里親になっていただくかどうかを決定しています。このことをその人たちに伝えるとほんとうに驚いてしまうのです。このことは、多くの人がペットを通信販売で購入できる他の商品とまったく同じように考えていることを示しているといえます。こういった人たちは、この軽い調子でペットを買ったり譲り受けたりするのであれば、もう要らないと考えるなり捨ててしまう、ということもあるでしょう。

当たり前のことですが、アークはペットショップでもなければペットビジネスでもありません。アークにやって来る動物たちはみな生まれてすぐに惨めな体験をしたものばかりです。虐待を受け、粗雑にあつかわれ、愛情をかけられもせずまた望まれもせず生まれ、そして捨てられてしまったのです。わたしたちアークがひたすら望むことは、ここに現在いる動物たちが残りの生涯にわたって十分なケアを受けて、愛情をかけられる、できるかぎり最良の里親の家庭を見つけるということなのです。この目的の達成のためアークには、動物を里親にわたす際の独自の厳しい規範があります。里親になりて来た人たちでも、アークの設定する基準を満たし得ないか、あるいは適切な飼い主になって頂けそうにない場合には、里親になっていただくことをお断りします。

アークがこの三月に導入した里親希望者に対する事前調査書は、長く、詳細にわたるものです。そのなかで里親希望者に問われることは、以前ともに暮らしたペットについて、ワクチン接種についての知識、かかりつけの獣医師に関する詳細、ペットに不妊手術をすることに関する意見、家の賃貸契約書にペットとの同居が認められているかどうかなどです。

ちなみに往々にして見てとれることは、以前にペットを飼った人たちがペットについての独断的な考え方に固執してしまって、案外無知なところがあり、他方これから初めてペットと生活しようとする人たちが、こちらの話を聴き多くを学ぼうとすることです。

以上を含めてアークの方針を厳しすぎるとするむきもあります。例えばその理由としてしばしば挙げられるのが、アークは犬を鎖などでつないで飼おうとする人は拒絶しているということ、また里親になっていただく人々に対しては、家族の一員として家のなかで犬といっしょに暮らしていただくか、庭に堅牢な柵をしてそのなかで犬を自由に走りまわらせる事などのお願いをお伝えしています。

アークの基本理念が、家族の一員としてのペットとの生活の質の向上を目指すものでこそあれ、わたしたちの判断基準を、ペットたちに対する無責任さや無知が蔓延する、通常のレベルに合わせて低くすることとまったく無縁であることを考えれば、この厳格さは必要不可欠にして最重要なのです。

保健所のような都道府県の機関が殺処分するペットの数は、毎年全国でおよそ百万匹という膨大なものですが、この残酷な処置以外にペットとの共生のための方策は絶対にあるはずで、かくいうもの、ごくわずかの一部の例外をのぞいてそのような機関で実施される犬・猫の譲渡会においては、ペットのいる生活の理想像を示すこともしなければ、そこからもらわれて行くペットの健康のチェックもせず、不妊手術の奨励、ペットに対する責任あるケアということも伝えることもなく、単にペットを里親希望者に譲り渡しているという事実も実に恐るべきことです。ですから一年程のうちに、もらわれて行ったペットが保健所に戻されたりしていることも驚くにはあたりません。

アークでは、以上のことを真剣にお考えいただける方には「里親になっていただく方々のための小冊子」と「事前調査書」を、どんなにでも差し上げております。